

「超精密」なモノづくりを支える 若手リーダー育成に取り組む

日本精密機械工業会副会長
「二意会」代表幹事 清水大介氏に聞く

日本精密機械工業会(日精工)では後継者やリーダー育成に向けた取り組みを強化している。若手部会「二意会」に年齢制限を設け、会員による発表や講師を招いたセミナー、講演会を開催。会員同士の親睦を深め業界の先達のアドバイスを得られる場の提供を整える。工作機械業でも後継者問題は課題であり、日本のモノづくりを支える精密機械メーカーの事業継承は技術立国としての存在そのものにも影響を与える。二意会の代表幹事を務める清水大介日精工副会長(牧野フライス精機(株)社長)に活動の狙いや今後の展開などを聞いた。

—日精工の若手経営者を中心とした二意会は長い歴史があるそうですね。

清水 2022年6月で40期を迎えます。若手経営者や後継者候補が親睦を深め、経営者としての実力を蓄えることを目的に発足しました。正会員だけでなく、賛助会員も加入でき、大手企業からは人材育成を目的に中堅・若手社員が参加している

ケースもあります。日精工の伝統である「和親協力」によって密接な人間関係が生まれ、先輩経営者から助言をもらえ若手にとって意義ある組織として存続しています。私自身、先代の急逝から08年に30歳で会社を引き継ぐことになり、二意会では大変お世話になってきました。

年齢の上限を設定

—20年から会員に年齢制限を設けました。その狙いは。

清水 40年近く続くとメンバーが高齢化し、50～60歳代の若手とは言えない世代の占める割合が高くなり、会の趣旨が少し変化してきた。長く現役社長がいることで後継者が入りづらいといった声も聞こえてくるようになってきたのがきっかけです。そこで20年5月の総会で定年制を設け、50歳を迎えた次の3月までを会員資格としました。それに伴い、55歳以上の役員もしくは役員経験者で組織する経友会と二意会の中間に位置する「令友会」を新設しました。会員資格を満50歳以上として二意会を卒業した年齢の会員同士が現役経営者の研鑽、親睦を深めることが目的です。

—新生「二意会」は変わりましたか。

清水 若返りました。直後の会員数は45人から21人へと大幅に減少しましたが、新たに10人の後継者が加入して現在(22年3月現在)は26人です。20歳代の若手も増え、今年も数人加入する予定となっています。以前は親睦会としてゴルフや食事会なども盛んでしたが、ちょうどコロナ下でのスタートとなり、活動の中身も変えて経営

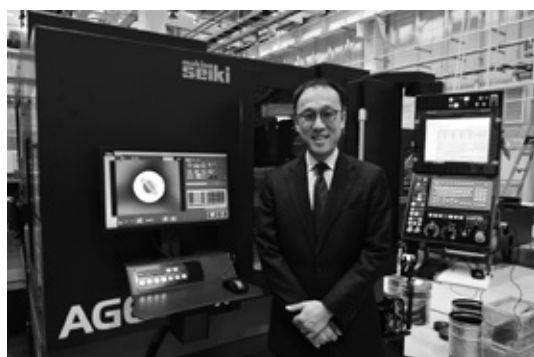


写真1 / 「製造業は現場から得ることが多い」と清水大介副会長